

2010年4月26日 北海道との意見交換会サンルダム説明資料

説明：佐々木克之（北海道自然保護協会）

サンルダムについては、20回の流域委員会で論議されたが、まったく不十分で、肝心の治水についてはほとんど議論なく終わってしまった。サクラマス問題は重要ということになって、その後魚類専門家会議が開催されたが、これもまったく不十分であった。その原因は、開発局も魚類専門家会議も、私たちが求めた話し合いを拒否したことにあり、今回の意見交換会は、よりよい流域管理にとって歓迎するものです。

以下に、問題点を私たちの考え方を簡単に説明します。

1. サンルダム建設の目的の変遷・・・1) 地元町長は過疎化が進んでいく中で危機感を覚えて、地域振興のために北海道開発局に要望→2) 北海道開発局は、中流域の音威子府の治水のために建設→3) 音威子府目的を、天塩川全体の治水に変更→4) 流域最大の町名寄市を水害から守る：地域振興の要望を受けて計画したため、目的が数回にわたって変更となり極めてあいまいである。。

2. 戦後最大の洪水の実態

治水の目標としている戦後最大の洪水（S48、S50、S56）では、名寄川の堤防は決壊していない。支流の決壊と大部分は内水氾濫であった。その後支流堤防は整備・強化され、残るは問題のある堤防の強化と内水氾濫防止のための排水機場の設置であると、私たちは考えている。

2 サンルダム建設の費用対効果の疑問

戦後最大の洪水被害額は、現在価格で約100億円なのに、同様な戦後最大の洪水が起きたときの被害額を6,000億円と見積もるなど、疑問が多い。また、ダム建設によって河川水の流れが不正常になるのに、ダムによる流水の正常機能の維持の便益を130億円と見積もることも疑問。

3. 目標流量の水増しの疑問

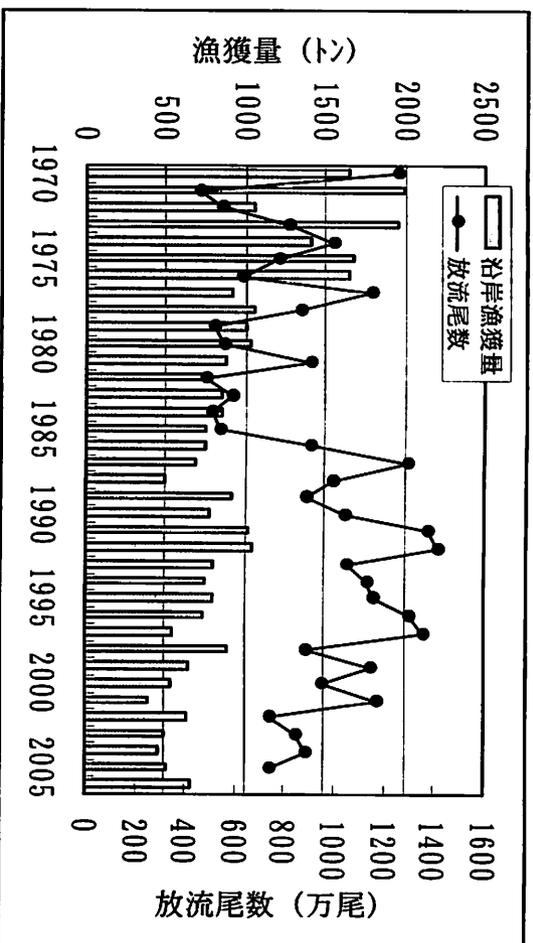
戦後最大の洪水に対処するとしているが、流量基準点の誉平と名寄川大橋では戦後最大流量を目標流量としているのに対して、サンルダムにかかわる名寄川真敷別の目標流量は戦後最大洪水の1.3倍としている。目標流量が多いほど、ダムの必要性を述べるのに有利になるので、ダム建設を予定している名寄川の目標流量だけ多くしているのは作為的ではないかとの疑問がある。

4. 流域住民はダムを望んでいない

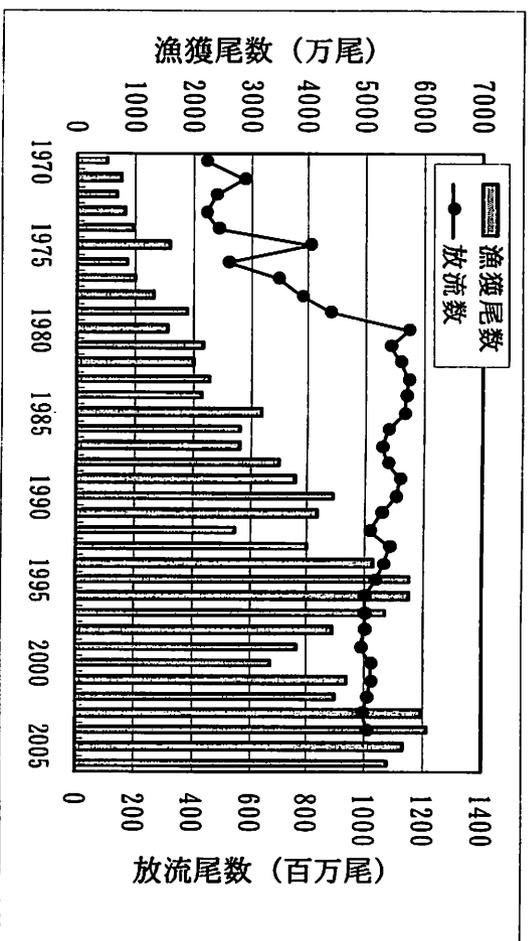
北海道開発局が、流域住民全世帯（5,000世帯）対象に1998年に行ったアンケートでは、天塩川が安全と回答した人は89%、ダムによる治水を望んだ人は7%、流域住民は、河川改修などで天塩川は安全だと思っていて、ダムが必要と感じていない。

5. サクラマス保全

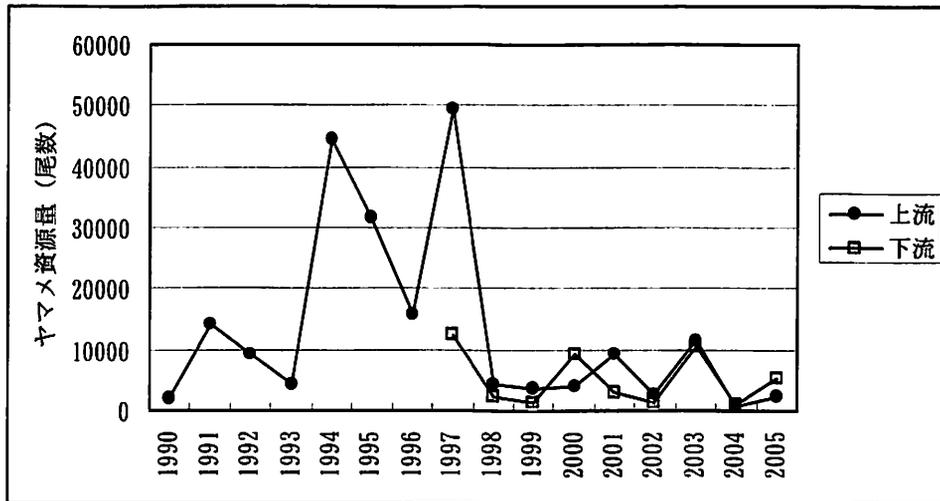
サンル川のヤマメ密度（尾数/m²）は日本一、サクラマスは北海道の重要資源だが、ダムなどの河川環境の悪化で減少しつつある。流域委員会ではサクラマス保全が重要という認識であった。サンルダムのような大型ダムに魚道を作って成功した例はまだない。流域委員会意見では、試験して検討すると述べているが、開発局は、まずダムを建設してから魚道の効果を検証するとしている。これはまずダムありきであり、サクラマスが保全されなければ無駄なダムが残ることになる。私たちは、魚道の効果を検証して、その結果に基づきダム建設の是非を検討すべきと主張している。



北海道におけるサクラマス放流尾数と漁獲量の推移（北海道立水産孵化場資料から引用）。1970～1980年の漁獲量は、サクラマスとカラフトマスの両種を合計して「マス」として北海道水産現勢に記載されているので、水産現勢の「マス」漁獲量から推定した数量である。



北海道におけるシロザケ放流尾数と漁獲尾数の推移



沙流川におけるヤマメ資源量の推移 (●：二風谷ダム上流域、□：ダム下流域)

6. 名寄市の水道水利水の問題

名寄市は、17.5 リットル/秒の水道水をサンルダムから取水したいとしているが、現在でも漏水対策をすれば十分であり、近い将来、名寄市の人口動態予測を考慮すると、ダムからの取水は不要であるし、現在の漏水率（20%）を全国平均 8%に改善するだけでもダムによらず利水ができる。

7. サンルダムに代わる治水案の提案

地元の人たちが詳細に調べて報告している。

北海道への要望事項

お互いに率直に対応することが、よりよい流域管理につながると考えている。意見交換会を実のあるものにして、よりよい流域管理につなげたい。住民などの意見を十分反映してこそ、後世に禍根を残さない案ができると考えているので、この意見交換会を、そのような場としていただきたい。